



シンフォニエッタ静岡
芸術監督・指揮者
中原 朋哉 様

～ 指揮者のお仕事 ～



私はどうやって指揮者になったのか？

これまでの勉強の経緯(作曲から指揮者へ転向。日本人に師事していないこと、そのメリットとデメリット)

指揮者のお勉強とお仕事

「勉強の仕方」スコアは設計図を読むようなもの。そこに書き間違いがあれば、練習が始まる前に発見しなければならない。設計前に設計図のミスを見逃さなくてはならないようなこと。また、演奏する作品の歴史的背景や、作曲家のこと(私生活のこと、例えば精神的な問題、戦争などの影響など)も知っておく必要がある。

「お仕事」その勉強したもの、自分が求めている音色、音楽の流れが練習でいかに演奏者に伝えられるかが最も大事な所。指揮者は本番では音を出せないで練習の時間が指揮者にとっての本番の時間となる。

指揮をしていて気分の良いものか？

...とよく思われているようで、よく質問を受けますが、実際に「気持ちいい！」と思ったことは一度もない。常に事故を防ぐように備え、演奏者がミス=事故を起こさない様に精神的な配慮もしていかなくてはならない。指揮者は最後まで一番冷静な立場でいなければならない(時にそうでない指揮者もいるが...)。私の指揮をご覧になった方は、激しく指揮を言っているように見えるかもしれないが、演奏会は聴くだけでなく、見るものでもある。特に「シンフォニエッタ静岡」は小編成なので、大編成のオーケストラに比べると見た目の迫力が劣る。その分を指揮者の演出で、お客様もオーケストラも盛り上げていく必要がある。でも常に頭の中は冷静でいる。

指揮者のタイトルとその仕事。日本とヨーロッパの違い。

芸術監督、音楽監督、常任指揮者、首席指揮者、正指揮者、副指揮者、桂冠指揮者、フレンド・オブ・セイジ等々。

日本ではこれらのタイトルは「指揮をしていればいい」ということ。多少人事の決定権がある程度。ヨーロッパでは経営面など、演奏以外のことも含め、全てにおいての最高責任者である。日本でもこのような役割のものを実行したいと思い、「シンフォニエッタ静岡」ではヨーロッパ式の役割を持たせた。

どうやってオーケストラは成立しているか？

- ・満席でやっと採算がとれる。普通の商売ではそれはないはず。目に見えないところに多くのお金がかかっている。練習時間(自宅での練習は含まれないが練習をしなくてはならない)楽器維持費、衣装のクリーニング代、著作権使用料、楽譜購入費(コピーは出来ない)、楽譜レンタル費、ホールの使用料、備品(譜面代1本、椅子1脚、指揮台からお金がかかる。譜面台は床に置いた時点から請求される)など。
- ・一般企業のような利益を生むようにし、楽団を維持していくためには、最低でも入場料を1席1万円以上に設定しなくてはならない。それではお客様は集まらないため、スポンサーによる援助を必要としている。

私達は、例えば1月8日14-16時という限られた時間にお客様にお越しいただくという特殊な商売です。24時間営業年中無休などということが絶対に不可能な商売。

ちょっと良いレストランや美容院(床屋さん)に行く感覚で演奏会にもお越しいただきたい。

委員会報告等

- ・クラブ奉仕委員会(寺尾委員長)
IGM(CLP)の概略の委員会構成案について。
IM(10月29日)13:30中島屋集合になります。

出席報告 中安委員長

	月/日	出席計算 会員数	出席者	欠席者	出席率	メイク アップ	確 定 出席率
前々回	9/28	53名	35名	18名	—	5名	75.4%
前 回	10/2	53名	43名	10名	—	5名	90.5%
本 日	10/16	53名	41名	12名	77.3%	(名)	—